

令和6年12月13日

建設委員会資料

活力都市創造部

目 次

【報告事項】

1	スマートシティの実現に向けた都市的指標調査について		1	頁
---	---------------------------	-------	---	---

1 スマートシティの実現に向けた都市的指標調査について

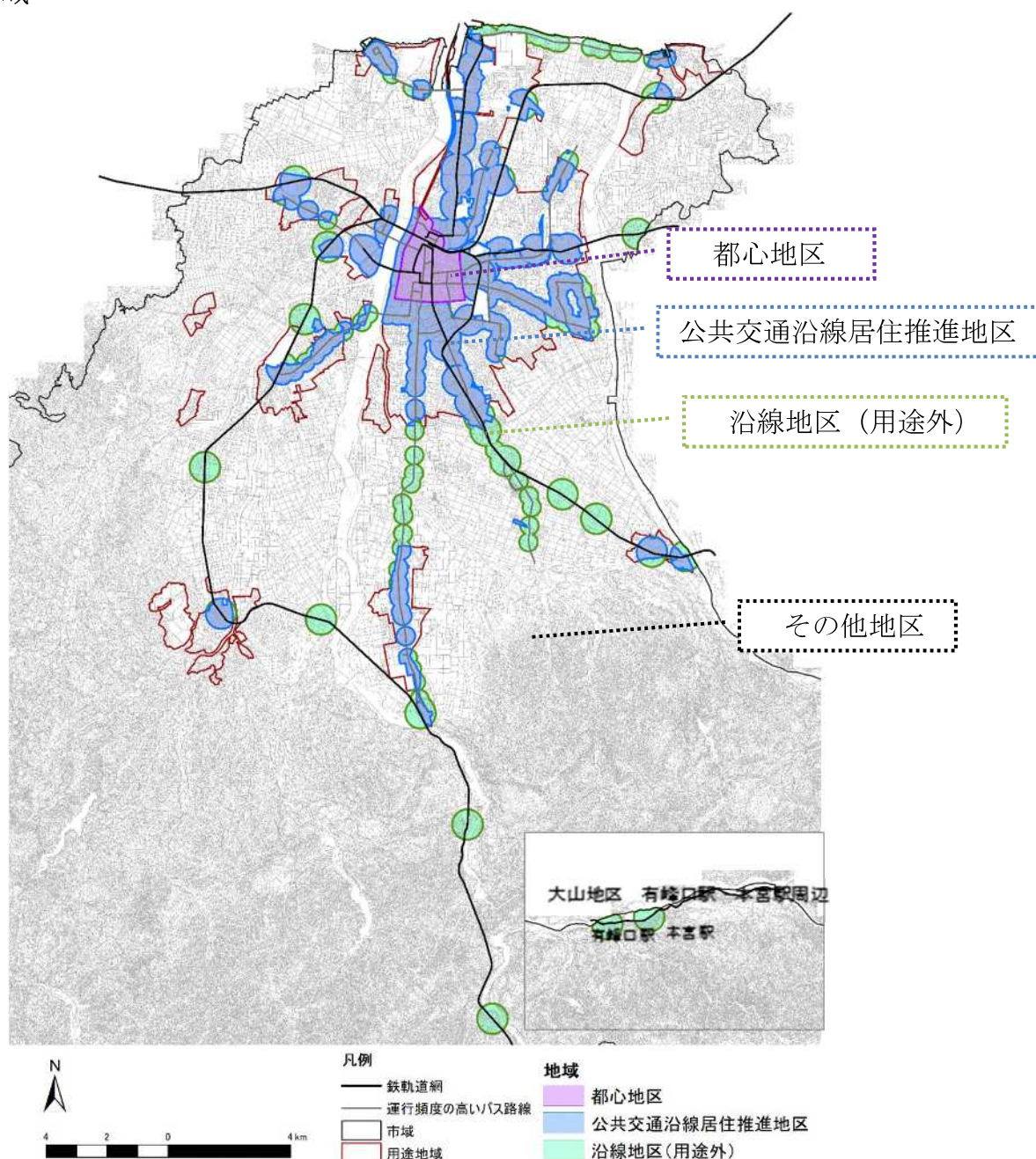
〔都市計画課〕

本調査は、コンパクトなまちづくりの進捗状況等を把握するため、平成 23 年度から実施しているもので、今回、令和 6 年度の調査結果等について報告するもの。

1. 調査概要

平成 17 年から令和 6 年まで各年 6 月末時点の住民基本台帳情報に位置座標を付与した上で、GIS（地理情報システム）に展開し、都市的指標の 1 つである、公共交通が便利な地域内の人口割合や社会動態（転入・転出の状況）等の集計・分析を行った。

2. 調査区域



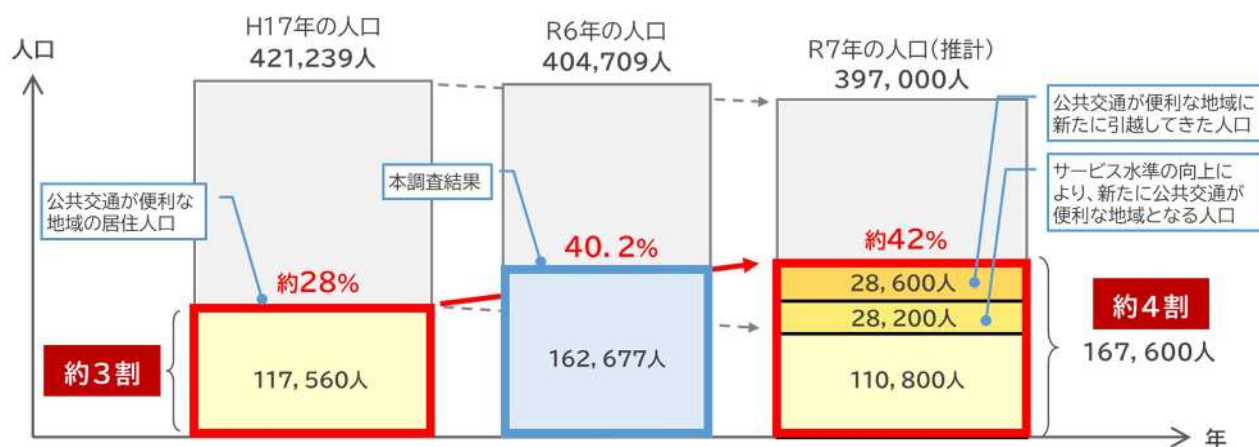
<図 1 調査区域>

3. 調査結果

(1) 「公共交通が便利な地域（都心地区＋公共交通沿線居住推進地区）」の人口割合の推移

- 本市では、数値目標として「公共交通が便利な地域」に住む人口割合を約 28%（平成 17 年）から約 42%（令和 7 年）に引き上げることとしている。
- 人口目標の設定にあたっては、便利な公共交通沿線に新たに引っ越してくることや、公共交通のサービス水準の向上により、新たに便利な公共交通沿線エリアが拡大することを想定している。
- 本調査（令和 6 年 6 月末時点）では、「公共交通が便利な地域」の居住人口が市全体の人口の 40.2% となり、令和 5 年の 40.0% から 0.2 ポイント増加した。

※R6 年の公共交通が便利な地域内の人口は 162,677 人（都心地区:21,447 人、公共交通沿線居住推進地区:141,230 人）となっている。

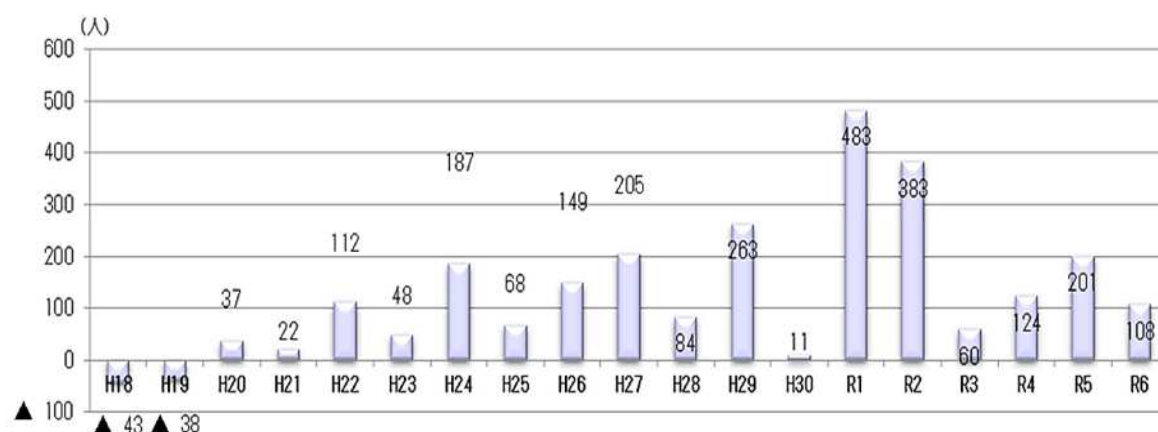


＜図2 公共交通が便利な地域に住む人口割合の推移＞

(2) 地区別社会動態（転入－転出）の推移

①都心地区

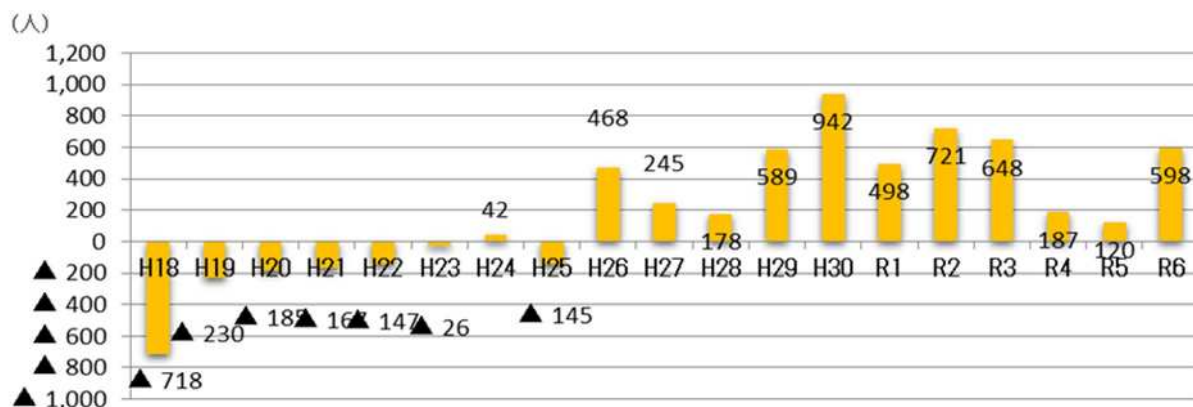
- 令和 6 年の都心地区の人口は 21,447 人となっている。
- 自然動態は 273 人の減少となったが、社会動態は 108 人の転入超過であり、平成 20 年から転入超過を維持している。
- 富山駅や西町周辺を中心とするマンションへの入居が要因と推察される。



＜図3 都心地区での社会動態（転入－転出）の推移＞

②公共交通沿線居住推進地区

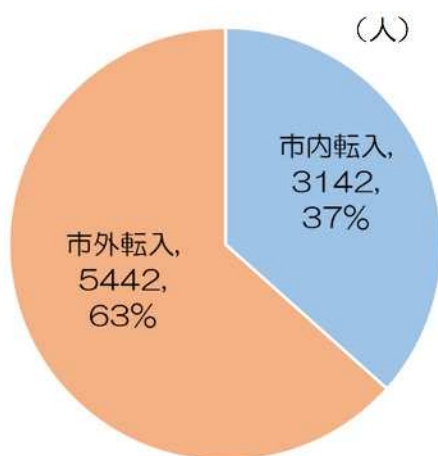
- 令和 6 年の公共交通沿線居住推進地区の人口は 141,230 人となっている。
- 自然動態は 983 人の減少となったが、社会動態は 598 人の転入超過であり、平成 24 年以降、転入超過の傾向を維持している。
- 鉄軌道沿線では、あいの風とやま鉄道の呉羽駅周辺、バス路線では藤ノ木方面、大沢野方面等での新たな開発が転入超過の要因になっていると推察される。



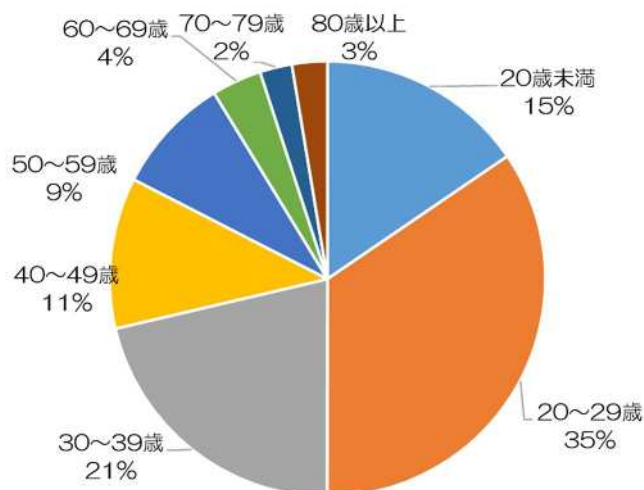
＜図 4 公共交通沿線居住推進地区での社会動態（転入－転出）の推移＞

③公共交通が便利な地域の転入者の傾向

- 公共交通が便利な地域内に転居した 8,584 人のうち、市外転入者は、5,442 人で約 63%、市内転入者は、3,142 人で約 37%であった。
- 年代別では、20 代や 30 代が多く、50 代までで約 9 割を占める。
- 転居元の状況、年代別割合ともに、例年と同様の傾向となっている。



＜図 5 転入者の転居元の状況＞



＜図 6 年代別転入者の状況＞